
病みつきなのは～選ばれなかった選択肢～

勳b

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

病みつきなのはー選ばれなかった選択肢ー

【Nコード】

N3235W

【作者名】

勲b

【あらすじ】

病みつきシリーズ第五弾!!!! 病みつきなのは14000PV&mp;5300ユニーク達成記念短編です。

少しでも多くの方に楽しんで貰えたら幸いです

※オリ主×なのはです

※病みつきなのはを読まないとは本当に話がわからないと思います

※活動報告にて、この作品の没を書きましたので、興味がある方は見てくれたら嬉しいです!!

(前書き)

病みつきシリーズ1. 5弾!!! 病みつきなのは14000PV & a m p. 5300ユニーク達成記念短編です。

少しでも多くの方に楽しんで貰えたら幸いです

間違った答えとは何だろうか？

答えが用意されている問題にたいして違う答えで応える。

それは確かに間違えだ。

では、答えが決まってないものにたいしての間違った答えとは何だろうか？

間違いなんてない、でも正解もない。

そういうことなんだろうか。

俺にはわからない。

でも、俺にもわかることがある。

それは、この選択肢は間違っでは無いこと

それは、この選択肢に正解が無いこと

それは、この選択肢を選んだことに、俺は後悔しないこと

――――

今日、訓練を無事終えた俺は、彼女高町なのはに大事な話がある

と言われ、彼女の部屋にお邪魔した。

そこでされた大事な話とは、俺とティアナがキスしていたことについてだった。

なのはさんは光が無く濁った瞳で俺の目を見ていた。

なのはさんが淹れてくれた紅茶には自分の血が入っていると――

俺に自分の血を美味しいと誉めとくれて嬉しいと頬を紅く染めながら――

狂ってる――

狂ってるんだ、彼女は

俺はそれを聞き、吐き出すためにトイレへと急いだ。
そして今、部屋から出るための方法を考えている。

そんな俺の前にモニターが現れる。

そのモニターには右手が映っており、人差し指には包帯が巻かれていた

「ちゃんと私の手見えるかな？」

扉ごしなのはさんの声が聞こえる

やはり、この手はなのはさんのなんだろう

「……何なんですか？」

「君がティアナと別れないんなら私このまま手首を切るよ？」

え……!?!? 何で!?!?

「な、何でそんなこと!?!?」

「だって君が私と一緒に居てくれないならもう私には生きてる意味が無いもん」 「そんなこと無いですよ!?! それになのはさんが死んだら六課の皆だって悲しみますよ!?!」

俺は彼女を説得してみるが、なのはさんはそれを無視して包帯を取っていく

「ねえ、見てよこの傷」

包帯が完全に取りれる

人差し指にはかなり深い傷があった

「本当はね、もっと小さめの傷にする予定だったんだけど……君とティアナのこと考えたらこんなに深くなっちゃった」

「ッ……何でこんな」

「言ったよ」

「私は君が好き」

「君のことを愛してるの」 「だから、君にも私を愛してほしい」

「私の全てを好きになってほしいの」
「そのためなら、私は何だってするよ」

なのはさんの表情はわからない。
でも、嘘では無いんだろう。

「だから、君に愛されない世界で生きるなんて嫌だ」 「君が
ティアナと別れてくれないなら、私はこのまま手首を切る」

彼女は本気なんだろう。

俺がティアナと別れなければ彼女は――

でも、俺は……!!

「……いす」

「……えっ」

「俺は、あなたが嫌いす!!!」

扉越しにいるなのはさんにたいして俺は叫ぶ。

「な……なんで？」

「嫌いなところがあるなら言ってよ、私はちゃんと直すから」

「私はあなたの言うこと何でも聞くよ」

「なのに、何で……」

「何で……!?!? こんなことしときながら好きだなんて、狂ってる
しか言いようが無いじゃないか!!」

「俺はそんなの嫌だ!!」

「……もう、嫌だ」

俯きながら俺は言う、モニターに映っていた魔力刃が消えた。

「嫌だよ……嫌いにならないで」

彼女は扉を叩く

「お願いだから私の傍に居て」

彼女は扉を叩く

それは、先ほどよりも強く

「言うこと聞くから、いい子でいるから」

彼女は扉を叩く

先ほどよりもずっと強く

「それでも……俺は、あなたが嫌いだ」

ガン!! と扉が強く叩かれる

「そっかティアナがいなければ……」

「そうすれば君は私を見てくれる？」

「……俺はあなたを見たくない」

扉を叩く音はしない

その代わり、モニターには力なく座るなのはさんが映っている。

「何で……いい子にしてたらいつか見てくれるって思ったのに」

なのはさんは俯いてるせいで表情は見えない。

「いい人でいたら、傍に居てくれると思ったのに」

今にも泣きそうな声で彼女は言う

「あなたを愛してれば愛してくれると思ったのに」 「私、おかしいのかな……」 「もう、わからないよ」

彼女は力なく笑いながら言う

「……いい子でいても誰も見てくれませんよ」

「いい人でいても誰も傍に居てくれませんよ」

「俺を愛しても、愛してくれるとは限りませんよ」

なのはさんの過去なんて俺は知らない。

でも、きっと悲しい過去だったんだろう。

……そんな気がする

なのはさんが魔力刃を作り、それを振り上げる。

「……離してよ、あなたが私の傍に居てくれ無いなら私は……！」

「傍にいます!!」

俺は彼女の振り上げた手を掴み、力強く言う。

「いい子じゃなくてもいい、いい人じゃなくてもいい、愛してくれなくてもいい」

「なのはさんは無理して俺に何かしなくてもいいから!!」

「俺は、なのはさんの傍に居るから」

「何で…？嫌いなんでしょ私のこと」

「嫌いですが、でも傍に居ます」

彼女の目を見て言う。

すると、彼女は大粒の涙を流しながら、笑う。

「可笑しいよ、そんなの」

「でも——」

彼女は俺に抱きつき耳元で囁く。

「ありがとう」

俺は彼女が嫌いだ。

でも、彼女も1人なんだ

俺と同じなんだ

そんな彼女を俺は——

——

さて、後日談でも話すでしょう

俺はティアナと別れた。

別れ話を切り出したのは彼女のほうからだった。

俺がなのはさんの部屋で最後に言ったことを聞いていたらしい。

というのも、なのはさんがあのときの映像をリアルタイムでティアナに流していたからだ。

それに、俺がティアナと付き合うときに交わした約束があり今回はそれに触れたためでもある。

互いに本気で好きな人が出来たら別れる

それが約束の内容だ。

ティアナとは別れたが俺はなのはさんとは付き合っていない。

でも、周り曰く、何時付き合ってもおかしくないらしい

付き合うはずがない、俺は彼女が嫌いなんだから。

噂をすればなんとやら

彼女が俺に近づいてくる。

……今は、嫌いなんだから。

(後書き)

こんにちはー勦bでーす

今回は病みつきシリーズ1、5弾!!!!病みつきなのは1400
OPV&p;5300ユニーク達成記念というわけで、病みつ
きシリーズ1、5弾であるこの短編を投稿しました

病みつきなのはとは違った形で終わらせるのを目標にしました。

さて、せっかくですのでこの場を借りて病みつきなのはの裏話で
もしましょう。

病みつきなのはの最後の彼女は本来はティアナにする予定でした。

まあ、書きながら可笑しくないか?と思い修正したんですけどね。

このように、私の作品では修正したところが多々ありますので、
それぞれのく選ばれなかった選択肢くの後書きにて紹介したいと思
います。

病みつきなのははこれしか無いんですけどねwww

それと、ティアナと主人公の関係が知りたい方は

病みつきティアナ

で明らかに!!

書けばの話なんですけど

さて、私は今病みつきフェイト〜後日談〜を書いていますが……時間がかかりそうです。

活動報告にて、フェイト〜後日談〜の始めの部分を投稿するので、見ていってくれると嬉しいです。

ついでに、お気に入りユーザーの方も（チラッ

ま……まあ、今回の後書きはこのあたりにしておきましょう

感想など、書いてくれたら嬉しいです……！！

それでは、また縁がありますように。

PS 次回の病みつきシリーズは病みつきなのは〜俗選ばれなかった選択肢〜か病みつきフェイト〜後日談〜のどちらかになるとおもいます。

ですが、私は気まぐれですので、変更する場合は活動報告にて報告します。

※活動報告にて、この作品の没ネタである病みつきなのは〜（没）選ばれなかった選択肢〜を書きました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3235w/>

病みつきなのは～選ばれなかった選択肢～

2011年10月9日15時29分発行